

令和6年第1回小金井市教育プラン検討会議事日程

令和6年12月10日(火)

午後6時開会

|                |  |  |                |  |
|----------------|--|--|----------------|--|
| 開催日時           | 令和6年12月10日   | 開会<br>閉会   | 6時00分<br>8時00分 |  |
| 場 所            | 第二庁舎8階 801会議室                                      |  |                |  |
| 出席委員           | 会 長 末松 裕基<br>会長職務代理者 大津 雅利                         | 委 員 黒木 智道<br>委 員 新井しのぶ<br>委 員 嶋内 和博<br>委 員 中村 光志                 |                |  |
| 欠席委員           |  |  |                |  |
| 説明のため出席した者の職氏名 | 教育長 大熊 雅士<br>学務課長 笹栗 秀亮<br>庶務課長 鈴木 功<br>指導室長 平田 勇治 | 統括指導主事 田村 忍<br>指導室指導係長 前川 智一<br>庶務課庶務係長 小平 文洋<br>庶務課庶務係主任 大久保 知佳 |                |  |
| 傍聴者人数          | 1人   |  |                |  |

| 議事内容                 |
|----------------------|
| (1) 委嘱状の交付           |
| (2) 教育長挨拶            |
| (3) 会長挨拶             |
| (4) 委員の自己紹介          |
| (5) 会長職務代理者の指名       |
| (6) 小金井市教育プランの位置づけ   |
| (7) 計画策定スケジュール       |
| (8) 現行教育プランの点検及び評価結果 |
| (9) 児童・生徒アンケート       |
| (10) その他             |

鈴木庶務課長 本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。ただ今から令和6年度第1回小金井市教育プラン検討会議を開催いたします。私は、事務局を担当しております庶務課長の鈴木でございます。どうぞよろしく願いいたします。

初めに、本会議の出席者をご紹介します。

(事務局のご紹介)

鈴木庶務課長 議事(1)委嘱状の交付です。お名前を呼ばれた方は、前にお願いいいたします。

(委嘱状交付)

鈴木庶務課長 続いて議事(2)教育長挨拶です。大熊教育長、お願いします。

大熊教育長 1970年から79年の10年間に35度を超えた日は10日あったそうです。本年度1年間で20日を超えました。明らかに地球温暖化が進んでいる事実がこの数字に表れていると思います。それだけではなく、1989年にベルリンの壁が崩壊してから、世界は大きくその教育の方向を変えてきました。日本は、その時たまたまバブルだったこともあり、教育改革に取り組まなかったということはないのですけれども、生活科が始まったり、総合的な学習の時間が始まったりして、その後少し方向性が変わろうとしたのですけれども、学力低下問題という新たな問題が出て大きく揺り戻しをされ、世界から大きく取り残されてしまったのが今の日本の教育の現状であると私は思っています。世界の国々がグループ活動を積極的に取り入れて、答えのない問いに果敢にチャレンジする教育が行われているにもかかわらず、日本ではまだ、今年度だいぶ進んではいるのですけれども、先生が講義する授業も少なからず残っているのも事実であります。

そのような教育が大きく転換する時期に今来ていて、「第3次明日の小金井教育プラン」もそれを受けて大きくその内容を変えてきました。その一例に、ほかの市が全て使っている言葉が1つだけ小金

井市の明日の教育プランにはないのです。それは何かというと、「学力の向上」という言葉がないのです。この場合の「学力」とは、学力テストの点数を上げるという意味だからです。「明日の小金井教育プラン」は、「学力の向上」の代わりに「確かな学力」という言葉を使っています。「確かな学力」とは、これから先行き不透明どころか、今の話があったように、もしかしたら先行き真っ暗な大変な時代を子供たちは生きていかなければなりません。そんなときに学力テストの点数が高いからと言って、そういう世の中を生きていけるとは思いません。だから、未来に生きて働く力をしっかり身につけてほしいという意味で「確かな学力」という言葉を使いました。

小金井市の各学校がそれをしっかり受け止めて、「授業改革」ではなく、「授業変革」に取り組んできていただいています。「授業変革」とした理由は、辞書で調べていただくと分かるのですが、改革の場合は課題を改善していくという意味で、変革の場合は根底から変えるという意味があるからです。つまり、これからの子供たちが未来を自分らしく生きていくためには、これまでの授業を根底から変える大改革を行わなければならないという意味合いを込めて、そのような言葉を使っているわけです。

今回、第4次「明日の小金井教育プラン」を作っていただくことになるのですが、そういう意味では第3次の上に第4次を作り上げるということは、手前味噌になるかもしれませんが、先端の教育目標になるのではないかと思っていますくらいです。それを叶えられる小金井市の先生方、そして小金井市の子供たちなのです。いろいろなところで子供たちの様子を見ていても、この子供たちだったら日本の未来を変えられるくらいの力があるのではないかと、いつも実感させられます。その子供たち一人一人の持つ自分らしさの種を十分に育てはぐくみ、その子らしい人生が送れるような教育に変えていきたいと、心の底から思っております。そういうことを実現できる教育プランをぜひとも作り上げていただきたい。それを基に小金井市の小中学校、合わせて14校、全力で頑張りたいと思いますので、どうか未来の子供たちが自分らしく生きていくために指針となる明日の小金井教育プランを作っていただきたいと切に願う次第でございます。私どもも全力を尽くして皆さんと一緒に作っていきたいと思いますが、忌憚のないご意見をいただいて、これから多くの指針を作っていくのだらうと思います。小金井の子供たちのため

の、今あるポテンシャルを十分に発揮し、十分に伸ばせる「明日の小金井教育プラン」を作っていただきたいと思う次第です。

今、子供のことを中心に考えましたけれども、実はこれを叶えるためには学校だけではできるとは思っておりません。地域の豊かな教育力を巻き込んでというか、活かしてこそ、この改革はできると思います。その点にも言及いただいて、地域の教育力を120%生かせる目標を掲げていきたいと思っております。これも小金井市の子供同様、他に類を見ない地域の教育力が小金井には存在しているからです。その総力を結集する計画にしていきたいと思いますとも思っておりますので、子供たちの未来、そしてそれを達成するためには学校だけではなくて地域を巻き込んで作り上げていくという、そんな教育プランにしていきたいと思いますので、ぜひともよろしく願いいたします。

鈴木庶務課長      ありがとうございました。教育長は公務のため、途中退席させていただきます。

続いて（3）会長挨拶です。資料1「小金井市教育プラン検討会議設置要綱」第3条第2項の規程に基づき、東京学芸大学準教授の末松裕基先生にお願いします。

ここからの議事進行は、末松会長にお任せします。会長挨拶をお願いします。

末松会長          今仰せつかりました、東京学芸大学の末松と申します。私自身の専門は教育学の中でも教育経営学です。これからの日本の学校の在り方を、国際的な観点からも考えながら、主に子供たちの学びがどうあるかはもちろんですし、それを教える先生も学び直さなければいけないということで、18歳からの教員の方々だけではなく、早い方は7、8年目くらいの先生方がこれから教育界のリーダーとして育っていくためにどのように学んでいくかという、リーダー育成を専門にしています。

私自身は2015年から小金井市の奨学金資金運営の委員を担当させていただいたご縁もあって、今回お声がけいただきました。東京学芸大学には2012年からお世話になっております。至らぬ点多々あるかと思いますし、こういったものは形式的にやるのではなく、それぞれのご専門やお立場から本当にかみ合わなくてもいい

と思います。意見が違うということは非常に大事なことで、そのプロセスの中から見えてくることがたくさんあると思いますので、そういったことを大事にしながら、混乱したら私にお任せいただいて、柔軟に進行させていただければと思っています。

では、挨拶はこれくらいにしまして、続きまして（４）委員の自己紹介をお願いします。本日は第１回目ですので、それぞれの方の背景などを知らないと思論はできないと思いますので、大津委員から時計回りで、簡単でも結構ですので、お願いいたします。

大津委員            学校教育部長をしております大津と申します。

黒木委員            小金井市立緑小学校の校長、黒木です。校長会の小学校を代表して参加しています。

新井委員            小金井市立東中学校の新井しのぶと申します。校長会中学校代表で参加しています。忌憚のない意見を述べさせていただこうと思います。

嶋内委員            市民公募で参加しています、嶋内和博と申します。

中村委員            市民公募で委員になりました、中村光志と申します。

末松会長            こういったメンバーで構成されていますので、本当に素朴な疑問や確認がすごく大事だと思いますので、ぜひ遠慮なくご発言いただければと思っています。

では、議事に入る前に、幾つか留意点を確認したいと思います。まず本日より会議録が作成されますが、記録の関係上、音声だけですと誰か分からなくなってしまうので、ご自身のお名前をおっしゃってから発言してください。

次に、会議録の記録方法についてですが、皆様にご審議いただくから決定となっております。全文を記録するやり方と要点を記録するやり方がございますが、前回の計画策定の際に全文記録であったため、全文記録でよろしいでしょうか。

なお、明らかな個人情報については、配慮させていただきます。

(委員一同異議なし)

末松会長

では、今回も全文記録という形式を取らせていただきます。

続きまして(5)会長職務代理者の指名についてです。簡単に言うと副会長のようなものですけれども、会長に事故があった場合その職務を代理する者として、設置要綱第3条第3項に規定されております。私から会長職代理者を指名させていただきたいと思っております。私から会長職代理者を指名させていただきたいと思っております。大津委員にお願いしたいと思っておりますが、よろしいですか。

(大津委員 異議なし)

大津委員

ただ今、会長職務代理者に指名されました大津と申します。どうぞよろしく申し上げます。

末松会長

ありがとうございました。

では、ここから中身に入っていきます。事前に資料を送っていたとしてもかなりの情報量で、初めて目にすることもあるかと思っておりますので、適宜、質問や確認の時間も取りながら、本日はおよそ午後8時までに終了したいと思っております。議事(9)児童・生徒アンケートを年明けに早速実施することになりますので、できれば(9)を主に今回十分に時間を取って検討させていただければと思っております。

では、(6)小金井市教育プランの位置づけについて、事務局より説明をお願いします。

鈴木庶務課長

資料1をご覧ください。まず、小金井市教育プランについて、確認させていただきます。小金井市教育プランとは、教育基本法第17条第2項の規定に基づく、小金井市教育委員会が定める教育振興基本計画となります。現計画である「第3次明日の小金井教育プラン」の計画期間が令和7年度末で終了することから、今年度及び来年度にかけて当検討委員会で次期計画の策定を行ってまいります。

当検討委員会の所掌事務は、第2条のとおり、①教育プランの素案の策定に関する事。②その他、教育プランの策定に必要な事項に関する事。について調査検討を行います。会議のメンバーは、第3条のとおり、学識経験者1人、学校教育部長1人、市立小・中

学校長2人、公募市民2人の計6人で構成されます。資料2は、委員名簿となります。

続きまして、資料3をご覧ください。本市教育委員会では、教育行政の基本とする目指すべき目標となる教育目標、教育スローガン、その教育目標を達成するための基本方針を定めております。本計画はこの原理・原則を受けて策定されております。次ページ以降に、それぞれの詳細が記載されております。なお、計画策定と並行して来年にかけて、この教育目標等についても改定を検討しております。教育目標等については、教育委員会で協議し、決定していきませんが、計画策定にも影響することから、検討情報等については、本検討委員会にも随時報告させていただきます。簡単ですが、まずは本計画の位置づけについてご説明いたしました。

末松会長 事務局の説明が終わりました。ただ今の説明について何かご意見ご質問等ございますか。

大熊教育長 現在、小金井市教育委員会で教育目標の改訂をしているところです。「主体的に学び合い多様性を尊重し、想像力豊かに未来を切り開く子供」、先ほどお話しした趣旨がここに入っているかと思っております。今回の小金井市の教育目標の、括弧に入っている部分は、平成20年に作られたままで、大きく変わっておりません。先ほども言いましたように、今、大きく教育界の方向が変わっていくときに、この教育目標を変えるという決断をした原案の原案がこれです。まだこれも決まっているわけではありませんので、ご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。

この文章は、「小金井市教育委員会は、一人一人の子供が～」という部分に入ってくるのではないかと考えています。確定しているわけではないので、方向性はこのような感じでいきたいと考えていますが、皆様のご意見をいただければと思います。

末松会長 できたてはやほやの案をありがとうございます。情報共有をさせていただき、皆さんのアイデアも出していただきながら、頭に入れながら議事を進めたいと思っております。

ほかにありますか。今日は何が分からないか分からない状態だと思っておりますので、進行はしていきますが、戻るのも自由です。

中村委員 小金井市の教育スローガンは、誰向けなのでしょうか。

大熊教育長 「笑顔いっぱい、わくわくいっぱい」というのは子供たちの姿として作り上げました。しかし、先生方も笑顔いっぱい、わくわくいっぴいの授業をやってほしいという思いも入っています。子供たちが目指す姿とともに、先生方が授業をやるときに目指す姿としても活用していただきたいと思いますと思いながらこのスローガンを作りました。

末松会長 対象としては子供だけでなく市民全体という意味ですね。

大熊教育長 初めは子供だったのですが、作っているうちに、先生が笑顔でわくわくしながら授業をやりたい、その姿にも結びつくという形で、拡大解釈するようになったという経緯があります。

中村委員 言葉がお子さん向けな感じがするので、お子さん向けの内容にしてあるのか、大人向けにしてあるのかが知りたかったのです。

大熊教育長 もともとは子供向けでした。

嶋内委員 教育現場を見せていただいているのですが、やはり子供たちは先生の映し鏡ではないですが、先生も余裕があって笑顔でないと、子供たちはそうならないので、おっしゃるとおりだと思います。

大熊教育長 ちなみに東中学校のスローガンは「笑顔いっぱい ワクワクいっぱい 東中！」です。

新井委員 「元気いっぱい」に替えました。

末松会長 子供を中心に、それを取り巻く人たちみんなに向けてという感じですね。

続いて、(7) 計画策定スケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

鈴木庶務課長      それでは、資料4をご覧ください。計画策定スケジュールについてです。下段項番10の「小金井市教育プラン検討会議」をごらんください。本日の会議を含め、全8回の会議で計画を策定していく予定です。時系列でご説明すると、この後、第1回目の会議で計画策定に向けてのアンケート調査について協議していただきますが、その協議を経て、来月の1月にアンケートを実施する予定です。その後、2月及び3月にかけてアンケート調査結果の分析を行い、その結果を踏まえ、3月頃に検討委員会の2回目の検討委員会を開催いたします。

4月から9月にかけては、計画の素案策定の時期となります。この期間では検討委員会を4回予定しております。素案の策定が終わった段階で、一度小金井市教育委員会に諮ります。その後、教育委員会からの意見をもらい、パブリックコメントに諮る素案を作成します。項番5にありますが、5月には市内の児童・生徒を対象としたワークショップも開催する予定です。詳細は、次期が近づいてきたらお知らせします。なお、スケジュールには記載しておりませんが、今月15日に、本市子ども家庭部児童青少年課が主体となり、市内中学生が参加するワークショップが開催されます。その際に、明日の小金井教育プランに関連したテーマを設定していると聞いております。このワークショップの結果についても今後の検討委員会で情報提供させていただければと思っております。

スケジュールに戻りまして、項番6になりますが、10月及び11月にかけて、次期計画の素案について、パブリックコメントを行います。パブリックコメントとは、市の施策原案に対して、市民の提言を求める「市民の提言制度」となります。12月に7回目の検討委員会で、パブリックコメントの報告を行い、令和8年2月に8回目の検討委員会を開催し、計画の最終とりまとめとなります。そして、最終案を教育委員会で議決いただき、令和8年3月に製本となります。

スケジュールの説明については、以上となります。

末松会長      子供に対してアンケートをおこなわないところもたくさんありますが、小金井市はほかの自治体に比べてもかなり丁寧に検討のスケジュール等、プロセスを組まれているかと思えます。その辺りも含めて質問、確認があればお願いします。

嶋内委員           今回資料を拝見させていただいたところ、初めて子供たちの声を聞くということで、非常にいい取組というか、素晴らしいと思います。第3次教育プランについては子供たちのアンケートのみで検証していくのですか。それとも有識者や関係しているいろいろな方々の評価と合わせて検証していくのですか。

小平庶務係長       「第3次明日の小金井教育プラン」の検証については、資料5「現行教育プランの点検及び評価結果」にて事務局が毎年評価しています。後ほど説明させていただきます。

それとは別に、アンケート自体についても「第3次明日の小金井教育プラン」に関連したアンケートという形になるので、まずは有識者の意見も入った点検・評価と、来月実施するアンケートを柱に検証していくこととなります。別途検証が必要ということであれば、随時提案していきたいと思っています。

末松会長           第3次については、毎年点検評価をしなければいけないと法律で決まっています。それを参考にするということと、子供たちのアンケートはニーズ調査を広く含んでいて、次のプランのために意図的に実施するということです。

嶋内委員           パブリックコメントを2カ月間経て報告が1カ月ということで、そのあと報告書の取りまとめが最後にあり、すぐに製本に入られますが、これくらいの期間で、例えば何かパブリックコメントでフィードバックがあったときに、それを反映させていくことが可能なのでしょうか。私も本業で中期計画や中期事業計画を立てていく際に、何度もフィードバックを経てブラッシュアップして、少し細かくイタレーションを繰り返しかけています。今回のプロセスとしては、1回限りのフィードバックでこれくらいの期間でうまく軌道修正できると捉えてよろしいですか。

小平庶務係長       計画ではパブリックコメントは10、11月の2カ月間を取っていますが、最大で2カ月と考えています。確かにフィードバックは1回しかないですが、こちらに関してはパブリックコメントで寄せられる意見の量にもよるとは思うのですが、できるかぎり事務局と

支援業者で分かりやすく説明、取りまとめをさせていただき、第7回目の検討委員会でお出ししたいと思っています。

末松会長 議事録の公開と傍聴は可能なのですか。議事録は随時公開するのですか。

小平庶務係長 公開します。

末松会長 パブリックコメントは完成したものを公開して意見をもらうので、その前に市民の方々とやりとりができるように議事録等は公開していくということですね。

鈴木庶務課長 皆さんにも確認いただいているということで、時間はあると思うのですが、ある程度まとめて逐次公開は進めていく予定としています。傍聴も可能としています。

末松会長 ずっとクローズドにして最後だけポンと出すのではなく、基本的にはオープンにどなたからでもご意見をいただけるようにしていくということです。1年半取るというのは私の経験上初めてで、すごく丁寧にやっているなという印象です。ほかのところは多分もっとパブコメの時間が短く、実質ほぼ誰も見ないということもよくあります。

小平庶務係長 傍聴席にも意見提案シートを設置していますので、意見がありましたら、提出時期にもよりますが、次回の会議で報告することはできます。

嶋内委員 この会議自体は周知されているのですか。

小平庶務係長 市報とホームページで周知啓発しています。

末松会長 ぜひ、そういった質問やご意見も出していただきたいです。ほかスケジュールに関して、よろしいですか。

第3次に比べて、子供たちのアンケートを早めからやっていくというのは第4次で新たに試みとして入れられたということですね。

では（８）現行教育プランの点検及び評価結果について、事務局より説明をお願いします。

鈴木庶務課長      それでは、資料５をご覧ください。現行の第３次明日の小金井教育プランについての評価ですが、こちらは毎年、教育委員会の活動状況について点検及び評価を行うことが法令で定められております。従いまして、本計画の施策ごとに毎年評価を行っており、直近３年間の評価結果となります。詳細については割愛させていただきますが、最後の総括にも記載させていただいておりますが、概ね計画に沿った目標達成に向けた取り組みが出来ております。

以上、現行教育プランの点検及び評価結果となります。

末松会長          お手元のピンク色の資料が第３次の教育プランについての資料です。現在の点検と評価結果の概要をお示しいただきました。第３次の評価結果は毎年ホームページに掲載しているのですか。

小平庶務係長      毎年教育委員会で報告させていただいています。その後、市議会での行政報告と同時にホームページにも掲載しています。

末松会長          各項目について、かなり丁寧な評価とチェックをおこなったものが掲載されていると思いますが、そのエッセンスを参考までに挙げていただいた形です。今後、第４次ができれば毎年同じように評価チェックを受けるといったイメージでしょうか。これは概要の確認という形でよろしいですか。

ここまででご質問やご確認があればお願いします。

嶋内委員          点検の評価結果を共有していただきましたが、すごく注力したつもりだったが意外と評価が低かったところや、逆に意外とよかったところなど、点検の結果が想定とギャップがあったところなどはありますか。

田村統括  
指導主事          点検評価自体は、それぞれ活動を確認しながら評価していくので、その都度、どのようなところが至らなかったか、よくできたのか評価基準のＡＢＣＤで表されていきます。今細かくお伝えすることはできませんが、話し合いの中で評価しています。

鈴木庶務課長 令和5年はなかったと思いますが、コロナで取組ができなかったり縮小されたりしたものは「ー」や「α」のような形で表記し、今までできていたものとは違う形で工夫をして取り組んだという、そういう予定外なところは令和3、4年辺りでありました。

小平庶務係長 点検評価については毎年実施していくという話でしたが、評価項目のベースとなっているのは「第3次明日の小金井教育プラン」の項目です。今後作る（仮称）第4次教育プランについても、まず項目において毎年点検評価をさせていただくのが基本的な考え方ですので、項目設定を考える際も点検評価を念頭に置いていただけるとありがたいです。

中村委員 概要版の最後のページ、基本方針3の1つ目の項目で、「計画を立てて勉強する」の割合が中学生より小学生が明らかに高いのですが、指導方法で主体性や計画性を注視した時期が小中学校の間であったのですか。顕著な差が見られます。

田村統括  
指導主事 令和元年度の文部科学省の全国学力学習状況調査のアンケート回答を基に数値が出されています。どのような状況で数値が出たかは一概には言えないところがあるので、理由についてははっきりとお答えすることはできないと思っています。

新井委員 実は本校も学校評価を毎年やっていますが、家庭学習については毎回低い数字になります。宿題をあまり出しても、塾との兼ね合い等があります。子供たちも保護者も分かっている、保護者会でも「こういう結果が出ました」という説明はさせていただくのですけれども、正直、毎年あまり伸びがない状態です。かといって、勉強していないかということ、そんなことはないと思います。

黒木委員 確かに小学生だと、1年生の時は家庭学習として宿題をやりましょうというのが、高学年になってくると、自分の弱いところや興味があるところなど、自分自身の興味関心や計画を立てて学習するようにはなっています。東京都の平均を見ても、小学校が中学校より高いですが、理由はよく分かりません。小学校で見ると、東京都の

平均よりは高くなっているかなというくらいしか、そのまま数字を読むしかないところです。

末松会長 小中学校を比較することに、もしかしたらあまり意味がないかもしれません。

中村委員 私が小さい頃は、小学生は結構欲望のままに遊んだりしていましたが、中学校になってそろそろ勉強しなければという気がしていました。自分の子供の頃と数字が乖離していたので、今、小学生世代のお子さんたちには家庭での計画的な勉強をするという文部科学省の教育方針があって、その成果が出てこうなっているのかなと思ったのです。

末松会長 大学生になるともっと低いと思います。

嶋内委員 もしかすると、小学校ではあまり自覚していなかったけれども、中学校では成績などが出てくるので自覚して、低く見ているのかもしれないかもしれません。私も小・中学生の子がいますが、中学生は数字が具体的に出てきます。

末松会長 実態と乖離している可能性があります。こういった確認も随時やっていたらと思います。

小金井市では「教育プラン」となっていますが、ほかの自治体では「学校教育基本振興計画」など、あくまで基本プランになるので、万が一、今回のプランに入らなくてもそれをやらないという意味ではありません。ほかの細かいところをそれぞれの課や学校が独自にプランを立てて作りやすいような、大きな幹や方針を作っていくのが大事になってくると思いますので、頭に入れておいただければ今後の議論がしやすくなると思っています。

では、(9) 児童・生徒アンケートについて、事務局より説明をお願いします。

鈴木庶務課長 それでは、資料6をご覧ください。調査の目的ですが、本市の市立小中学生の学校生活や取組、悩み・相談の状況、部活動の意向、希望する学習メニューなどをうかがい、第4次教育プラン計画策定

を見据えた基礎資料とすることを目的に実施いたします。なお、令和5年4月に「こども基本法」が制定されています。本法において、子ども自身に直接関係する全ての事項に関し、年齢や発達の程度に応じて、子どもの意見を表明する機会と、多様な社会的活動に参画する機会が確保されることが規定されました。

また、令和6年3月に東京都が策定した東京都教育振興基本計画「東京都教育ビジョン（第5次）」においても、都内公立学校の約1万人の子供たちを対象としたアンケートを実施するなど、近年、教育振興基本計画の策定にあたり、アンケートを実施している状況があります。本市においても平成21年3月に制定された「小金井市子どもの権利に関する条例」でも子どもの権利が保障されていることから、子どもの意見聴取の機会として、現行の計画策定時には実施しなかった児童・生徒を対象としたアンケート調査を行うことといたしました。なお、先ほどもご説明しましたが、別途、子どもの意見を直接聞く機会として、ワークショップの開催も予定しています。では、アンケート調査概要の詳細については、支援事業者よりご説明させていただきます。

#### 委託事業者

資料6をご覧ください。調査の概要は、表のとおりです。調査期間は、令和7年1月16日から31日を予定しており、調査対象は、市立小学校9校の5・6年生約2,000人、市立中学校5校の1、2年生約1,500人を見込んでいます。実施手法は、児童・生徒用ICT端末で、URLや二次元コード等からリンクし、回答していただきます。分析には、単純集計とクロス集計を通じて、現状・課題を把握していく予定です。ちなみに、単純集計とは、一つの問いの項目を集計するもので、クロス集計は、複数の問いの項目をかけ合わせ集計するものです。より詳細にデータの傾向を見たい場合に、後者のクロス集計を用います。現時点では、回答者の基本属性の一つである「学年」を、クロス集計の基本軸としつつ、必要に応じてクロス項目を追加する予定です。

次に、資料7の項目案です。調査項目は、基本属性、学校での生活・取組について、悩み・相談について、部活動について、こちらは、中学生のみです。設問はこれらに大きく分かれ、小学生35問、中学生38問を想定しています。

まず、問1から問3は、性別、学年別、学年別をうかがいます。

また、問4から26は、現行計画の主要事業と対応するものです。児童生徒の観点から、計画の進捗について評価いただく趣旨で調査を設計しています。選択肢としては、「1. 強くそう思う」から「4. まったくそう思わない」までの4段階で評価するものとなっています。ただし、回答が難しいと思う方のために、「5. よくわからない」も選択肢として加えています。

また、これらは、現行計画の評価だけでなく、今後どのようなところに力を入れていくべきかを前向きに考えていくための資料ともなります。

改めて、資料7の1枚目をご覧ください。性別では、性の多様性への配慮として選択肢案に「その他」を設けています。問4からが、主に主要事業の評価につながる設問です。教育プラン概要版の見開きにありますとおり、基本方針の1つ目が「人権尊重の精神」と「社会貢献の精神」の育成で、これに対応する主要事業が①から⑤です。そしてこれらに対応する形で、問4から8を設けています。基本方針2「個性」と「創造力」の伸長、基本方針3「信頼される学校づくり」と「確かな学力」の確立にも同様に、それぞれ対応する問いを設定しています。主要事業それぞれについて、子どもたちが実感として分かりやすい形に表現を変え、設問案としています。

悩み・相談に関してが、問32から35です。学校生活で不安に感じる事、今持っている心配事や悩み、相談相手について、また問35では「小金井市子どもオンブズパーソン」の認知度についてうかがいます。

問36から38は、中学生の休日部活動が地域移行していく中で、参加意向の有無とその理由をうかがうことで、実施に向けた障壁、改善点などを探る資料といたします。

末松会長

1月に早速アンケートの実施となりますので、この会議で検討できるのも今回だけです。これまでに事務局と業者でかなり丁寧に何度かやりとりをしていただいて、第3次プランの主要事業のどこに相当するかというのは資料7の備考欄で見られます。例えば、小金井市のこれまでと今後の教育のことを考えた場合に、ぜひこういうことを聞いたほうがいいのか、データとして取っておいたほうがいいのかとか、対象は小学校5、6年生と中学校1、2年生ですので、資料7の設問の文言はこのような表現のほうが分

かりやすいのではないかと、あまりたくさん聞きすぎると集中力が切れてしまうこともあると思うので、その辺りについてもぜひご意見やご質問等いただければと思います。

中村委員 資料6の下半分で、対象が中学校に関しては2、3年生ではなく1、2年生というのは、部活動が土日学校外で行われる関係上、3年生は卒業してしまうからあまり関係ないという意味ですか。普通、高学年が一番その学校で長く生活していたのでより深い答えが得られるところでは。

委託事業者 3年生まで伺うことでより密度の高い調査ができるかと思うのですが、今回、あえて中学3年生を外しているのは、今は小学生も受験をされますが、受験期間がある中であまり時間を取るのも難しいということと、「今後の部活動」というのが中学独自の設問ですので、学校の部活動を活用する予定の方々を中心としたほうが良かろうということがあります。

小平庶務係長 補足いたします。アンケートの対象については多ければ多いほどよろしいかと思うのですが、予算等との兼ね合いもあり、ある程度人数を絞らせていただきました。その中で、教育プランに関しては小・中学校の計画が主となりますので、中学校3年生は卒業が控えているということで、これからまだ中学校生活を送る時間が長い1・2年生を対象とさせていただいたところでは。

嶋内委員 先ほど予算の話もありましたので、無理を承知で質問させていただきます。今回、自由記述欄は設けないのですか。意図として、既存事業の評価という観点ではこれでポイントが統計的に出てくると思うのですが、一方で第4次の参考資料にしようとした際には、なんとなくここがよかったというのは分かっても、なぜここが低いのか、課題になっているのかが分かりません。次の計画を立てる際の情報としては、本質的なことが拾えたほうがいいのではないかと感じました。ただ、2,000人分となるとコストもかかるので、結局トレードオフにはなると思います。

委託事業者 できることであれば、その他回答をもっと増やして思いの丈を述

べていただいたほうがいいのかもしれませんが、設問数が38問もあり、小学5年生を基準に考えたところ、これ以上増やせないだろうと考えました。その他回答を増やせば増やすほど、回答に悩んでしまうと最後まで行きつかない状況も生じてしまうのではとの判断で、かなり割愛をさせていただいています。部分的にその他回答の中に括弧を設けて、例えば「部活動に参加したくない理由は何ですか」というところには記述欄を設けるよう配慮しています。

嶋内委員 評価という観点では非常に使えるものだと思うのですが、次のプランへの生かし方のイメージはありますか。

委託事業者 結果は各担当の中で共有されますので、自分たちがやってきたことと子供たち目線での回答にギャップが大きい部分については、各所管で見ていただきながら、振り返りを進めていく中で今後の対応をしていくことを期待しています。

小平庶務係長 自由記述については事務局としてもかなり悩んだところですが、今月、児童青少年課が開催するワークショップと、来年5月ごろに予定しているワークショップで、アンケートに出せない生の声を拾っていきたく事務局としては考えています。

嶋内委員 このアンケート結果を受けて、例えばギャップが見つかったときにワークショップの設計に反映させていくことなどを考えられているという理解でいいですか。

小平庶務係長 はい、そのように考えております。

末松会長 各課でのプランの際の判断材料にするということですね。最後だけでも自由記述があればというのがありますが、全員に答えてもらうと、それをどう使うか、重みをどうするかというのは重要なところですが。嶋内委員としては、最後に自由記述があるより、各問いに対してもう少し質的なものがほしいというイメージですか。

嶋内委員 無理なことは分かりつつ、理想論です。現実的にどのような方法に落とし込めばいいかということですが。

小平庶務係長　　今、委託事業者とも話はしていますが、最後に自由記述を設けることはシステム的には可能ではあります。ただ、それをどう分析してどう計画に反映していくかは難しいので、検討委員会でも諮っていきたいと思います。

末松会長　　日常的な子供たちの声はここにしか挙げられないわけではないので、各学校でもアンケートを取られていると思います。匿名の自由記述では本人の意図が確認できなかつたりするので、皆様のご意見を頂きたいです。

嶋内委員　　資料7の設問21「学校の施設で、危険な場所があると思いますか」について、学校施設の充実を図ろうとされていると思います。小金井市は古い学校が非常に多いので、エアコンが壊れたままなかなか直らないなどいろいろなお声を聞きます。「危険な場所があると思いますか」という設問ですと、危険でなければ充実しているという評価になってしまうと思います。

小平庶務係長　　確かに、問21の意図としては学校施設の充実があります。ただ一方で、教育プランに関してはハードの部分を計画に入れづらい点があるので、別立てで庶務課が作っている長寿命化計画で施設に関してはある程度進めていきたいと考えています。問21については委託事業者と聞き方について検討したいと思います。

嶋内委員　　これは危ないという意識を聞きたいのですか。

委託事業者　　学校施設が老朽化している中で、転びやすい場所、何かが落ちそうな場所などを子供目線で把握していれば評価につなげてもらいたいということです。

中村委員　　だとすると、こここそ自由記述で書いてもらわないと対処できないと思います。一方で、施設などの話であれば危険ではなく不便、使いづらいという表現に変えてもいいかと思います。

末松会長　　危機管理上、子供に責任を持たせることはできないので、どちら

かというユーザーの利便性などを聞いたほうがいいのかもかもしれません。

鈴木庶務課長 学校施設の所管は庶務課です。中村委員からあった意見はもっともですので、あえて危険な場所を聞くより、利便性の点など、答えやすい形を検討します。

末松会長 子供の目線では、大人と違うことを感じていると思いますので、そういうことが聞けるようにご検討いただければと思います。

黒木委員 小学校5年生も答えるということで、かなり絞って38問ということですが、それでも多い気がします。問26までが主要事業に対応して作ってあるということは分かるのですが、問27からの主観的幸福や悩み・相談については、今の小学生は結構いろいろなところでこのようなアンケートを取っています。小金井市の事業に合わせてアンケートを取るのに、これが基礎資料として必要なのでしょうか。減らせるなら減らしてほしいです。

問36は「地域に移行」と「休日の活動」というダブルバレルになっています。

委託事業者 問26までが主要事業の評価と直接リンクしたものです。問29～31が基本方針1、2、3に大まかに対応したもので、表現を変えた形で伺えたらという観点から付けたものです。ただ、直接的には問26までの積み上げで評価はできますので、設問数をもう少ししぼれるか、事務局内で再度考えたいと思います。

問36については、地域移行と休日の部活動を切り分けて設問を設計すべきだと思いますので、修正の方向で検討させていただきます。

末松会長 特に問26以降は、仮にカットして、データ分析上さほど支障はないですか。

委託事業者 個別具体の問だけで全体を評価することになってしまうので、もう少し全体を包含した問いをバックアップとして持っておいて、どちらが評価として適切かを見たいというところもあります。

末松会長 黒木委員、5年生は集中力が続かないので、5問くらい減ると随分変わりますよね。

黒木委員 やれと言えば子供は書いてくれますが、適当になってしまうことはあると思います。

中村委員 テクニカルには、具体的な質問を5パターン用意して、一人当たりの設問数を少なくすることもできます。たくさん集計すれば、統計的には1つの評価項目に対して複数個別の回答が得られるという方法もありますが、設問をつくる側としては大変ですか。

委託事業者 母数がもともと多いわけではないので、個別に分けて質問を設計し評価するのは、時間軸も含めて難しいところがあります。

中村委員 アンケートはQRコードで回答して集計も機械的にできるのですよね。

委託事業者 これまで事務局の中でいろいろと議論してきた経緯があります。

末松会長 スパッと切ると、欲しいデータが取れないと思う人が出てくるといことですね。

委託事業者 もうすぐ年末年始に入ってしまう中で、もう一度持ち帰って、もっと短期間で同じプロセスをたどるのは難しいという実務的な制約があります。

末松会長 これまで根を詰めて検討していただいている分、大変ご苦労があったのだらうと思います。今この場で決めずに、そういうご意見を踏まえて現実的な落としどころをご検討いただきたいです。

中学校の立場からしてみると、いかがですか。

新井委員 中学生も38間はきついと思いました。これは学校でやるという設定ですが、半月間で、3年生はテストや出願などがあり、いつ時間を取るのでしょうか。総合の時間などは年間計画が全て決まってい

ます。何分ぐらいを想定して作られているアンケートなのでしょう  
か。本校でしたら朝学活の時間などで分けてやっていくしかないと思  
っているのですが、途中保存が可能なのでしょうか。

委託事業者 中学3年生については対象から外しています。朝が一番やりやす  
かろうということで、おおむね20～25分程度を想定して今の段  
階では設計していますが、実際は説明したり質問を受ける中で、も  
う少し時間がかかることもあり得ます。設問数は極力しぼり込む方  
向で、急ぎ事務局内で調整を検討します。

小平庶務係長 今回のアンケート自体は現行プランの柱に沿って組み立てられてい  
ます。設問数を少なくすることを考えると、柱をできるかぎりくっ  
つけて、似たような問いは1つの設問で聞くなど、委託事業者と検  
討したいと思います。

末松会長 機械的にやるのではなく、必要なデータをぜひ取っていただきた  
いので、合体できる問いは合体するなどできるだけ工夫をして、学  
校や子供たちになるべく負担がかからないよう検討いただければと  
思います。

中村委員 先ほど黒木委員からご指摘があったように、東京都や文部科学省  
などいろいろなところから調査依頼が来ると思うので、既に聞かれ  
ていることは流用できないでしょうか。母数が変わったりはすると思  
いますが、既に出ている調査結果もあると思います。

末松会長 小・中学校で、市として使えるアンケート結果などのデータはあ  
りますか。

中村委員 東京都で取ったデータは東京都でまとめられてしまって、中学校  
ごとのデータはもらえないのですか。

田村統括  
指導主事 できるものとしては、先ほど話に出た文部科学省の調査などで  
すが、小学校6年生、中学3年生など学年が限られています。東京都  
の調査も全校での実施ではなくなってしまったので、広く使えるア  
ンケート結果は今すぐには思いつかない状況です。広く聞くとする

と、改めて聞かなければ統一できるようなデータはないと思います。

末松会長 依頼の際に、プランに必要ということで、一緒に考えてほしいとぜひ伝えていただきたいです。

嶋内委員 主要事業の20番目「学区域の見直し」はもともとどのような目的でやろうとしているのでしょうか。小金井第三小学校は児童数が多く、キャパシティーが理由かと想像していますが、必要な設問なのでしょうか。

小平庶務係長 実は点検評価のところでも評価が出ているのですが、学区域の見直しは現状では進んでいません。小金井第三小学校は大規模化しているので、周辺の学校にご協力いただいて広域で対応しておりますが、これを設問で聞くというのは、確かに評価が中々難しいというご意見も分かります。今は柱に対して1つの設問を聞くような形ですが、学区域に関しては削除することも考えられます。

嶋内委員 圧縮したいという話もありましたので、もともとの目的とずれてしまっている設問であれば検討をお願いします。

末松会長 今回のデータとして特段必要がないということであれば、思い切って削除してもいいと思います。

中村委員 いくつかまとめてお伝えします。

資料7の4番、「あなたは、学校の中で、周りの目を気にせず、自分の気持ちに正直に過ごせていると思いますか」とありますが、人間は周りの目を気にして行動するのが普通だと思うので、自分が正直にというより、他人への寛容さというか、他人に関心を持っていますか、意見の違う人に対して寛容ですか、という問いのほうが人権教育という意味では重要になると思いました。

7番、「学校の体験活動が楽しい内容であったと思いますか」とありますが、楽しいことだけに価値があるとは思いません。大変な思いをした、こういう仕事は苦労があると思った、今までにない経験ができたというのでもいいと思います。「楽しい」が「善」というのは価値観が偏っていると思います。

8番の「道徳の授業をつうじて、人の気持ちを考えることができると思えますか」という質問は「はい」としか答えようがない気がします。道徳の授業で人に優しくなれたり、寛容になれたり、怒りを抑えたりできるようになったかという、もう少し踏み込んだ質問がいいと思いました。

9番は学校のルールづくりに関与できる機会があったかという問いですが、教育現場の仕組みや教育方針に対し子供の意見を伝える場があったかという意図であれば、単に学級会で意見を出したというニュアンスに取られない設問にしないと、誤解するお子さんがいると思いました。

10番は、図書館で読みたい本があるかという設問ですが、最近の学校現場を知らないのですが、今時のお子さんは電子書籍で読むことも多いと思うので、図書館の蔵書量にこだわるのは時代にそぐわないと思いました。可能であれば、学校のタブレットで読める電子書籍を増やすという方向性もあると思います。

12番は、事業評価の「個性や創造力を育むための文化的行事の充実」とつながっていますが、事業目標自体も「文化的」と書いてあるのが気になりましたが、個性や創造性というのはビジネスモデルをつくる、新しい建築方法を生み出すなど、理系や工学的な場面で非常に重要で、むしろそちらのほうが社会に出て生かす機会が多いと思います。芸術や文化と結びつけるのではなく、もっと社会的にいろいろな場面で生かせるというニュアンスが出る設問にしてはどうでしょう。花壇の草むしりをより効率にやる方法を考えるなどでも、クリエイティブや創造性は生かせます。

13番は、事業評価の「(仮称)教育支援センターの設置」などに関連していますが、「相談できる人や場所がありますか」だけでは親も該当するのでセンターの設置に関係がありません。34番に教育支援センターが挙げられていれば、活用されているという解釈ができると思います。13番は、「家庭以外で」などと付けたほうがいいと思います。

29番は削られるかもしれないということですが、「今の自分が好きですか」というのは少し哲学的で、自分が好きではないから努力して良くなりたいというのがあります。自分が大事だと思えているかを聞くほうがいいと思います。映画や漫画の主人公のように清廉潔白で100%善人という人はいないので、自分の嫌いなところ

は誰にでもあると思います。

委託事業者      ご意見ありがとうございます。当初、大人目線では分かりやすいが子供には分かりにくい、もっと説明的な文章だったのを、いろいろ練ってきた経緯があります。例えば創造性を取るか現実性を取るかというところは、我々が考えていたことと違うご意見がいただけて非常にありがたいです。今いただいたご意見を最大限生かしていきたいと思います。

小平庶務係長      予定では、本会議で事務局が取りまとめて、来月のアンケートに臨む予定でしたが、様々なご意見をいただきましたので、今のご意見も踏まえて再考して、メール等で調整した上でアンケートを実施させていただきます。

末松会長          折衷案を取るというより、大事にしたい部分もあると思います。教育界は特殊な言葉を使うので、委員がおっしゃったような気づいていなかった部分もあるので、カバーできていないと思うところがあれば素直に変えていただいて、より率直に実態に迫れるようなアンケートになったらいいと思います。

第4次計画の文言が変わってくるかと思いますが、説明しながら意味合いを変えていけばいいと思いますが、短期間で難しいところもあると思います。

ぜひ今日いただいたご意見を基に、落としどころをご検討いただいて、我々にもフィードバックを頂けるような最新案をメール審議させていただければと思います。

大津委員          中村委員のご意見でハッとするようなこともありましたので、参考にしながらまとめていければと考えています。事務局は大変ですけれども、よろしく願いいたします。

中村委員          意見なので、全部反映させてほしいということではありませんので。

末松会長          ここにいない人たちの思惑もあると思います。もともとの予算を取ったときは計画にこういう文言があったので、実情を把握したい

ということもあると思います。

大津委員        私は、事務局側のやりとりも全部見ているので、言える部分と言えない部分がいろいろとありますが、参考になる話が聞けたと思っていますので、寄り添いながら進めていけたらと思っています。

末松会長        アンケートは来月実施になりますので、メール等活用しながら事務局は修正をお願いします。

最後に（10）その他として何かございますか。

（特になし。）

末松会長        次回会議は3月中の開催が予定されています。日程調整は後日事務局からおこなわれると思いますので、皆さん、ご都合をつけていただきますようよろしくお願いいたします。

皆さんお疲れの時期だったかと思いますが、今後が楽しみになるようなメンバーで、アンケートが出てからさらに中身について検討が進むと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

では、第1回目の会議は以上とします。

ありがとうございました。

閉会 午後8時